



あの日から二年。石巻に住んでいます。復興計画は思うに任せず、被災者それぞれが先の不安にさいなまれる日々を過ごしています。それでも、この災禍をバネに先に進まねばなりません。震災以前とは違う未来を切り開きたい、その思いが私にとっては原動力となっています。

二月十三、十六日、ドイツ・ニュルンベルクで開かれた世界最大のオーガニック見本市「ビオファ2013」に参加しました。ジェットロが主催した初の「ジャパンパピリオン」に被災地枠として一ノ蔵も出展させていた

東北復興日記



一ノ蔵マーケティング室長 山田好恵さん

30



日本の底力を見せよう

「このSAKEはこれだ。のササニシキで仕込んだ。だきました」写真。出品酒は有機原料米清酒「特別純米酒一ノ蔵冬ヤブ」が、一ノ蔵のブース期湛水仕込み。大崎市にも立ち寄ってくれまして田尻の蕪栗沼周辺のた。

「ふゆみずたんぼ」(冬でも水を張った田んぼ) 二つに分かれました。試飲された方の反応は

「このSAKEはこれだ。まで飲んできたものと違。ヨーロッパでもすし人気が高まり、日本酒の需要が期待されます。被災地には「BIO(有機栽培の農地をふゆみずたんぼ)のSAKEを待つてばで再生するとともに、持続可能な農業が支える日本酒をブランド化し

もう一方は「SAKEて、ものづくり日本の底力をみせよう。そう決意しよ？」というもの。どうやら透明な液体を蒸留酒と思われたよう。アルコール分のこと、原料が有機米であること、ふゆみずたんぼ農法について。私たちが伝えたいことを熱心に説明するところ

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。